

あとがき

作品の応募は、私たちが予想していた以上に多いものでした。そしてサロマから全国各地へ旅立って行ったかぼちゃの種が、こんなにも各地で多くの方々に愛され親しまれ、かつ、夢と感動を与えていたとは：想像もつきませんでした。皆様から寄せられた作品を拝見させていただいて、思わず涙がこぼれそうになるものや、思わず微笑んでしまうものなど、応募された方の努力の様子や、その瞬間の気持ちが目の前で再現されたのごとく思い浮かべることができ、すばらしい作品ばかりで、私たちも非常に感動させられました。そして、私たちの住むまちサロマ町や、私たち実行委員への過分なる思い入れや激励のメッセージをたくさんの方からいただきました。本当にありがとうございます。

シンデレラ夢まつりは

『ひとりひとりの夢と感動をつなぎ

その時々の歴史を刻み込む 伝統を持った “まつり”』

をめざして 気持ちも新たにスタートします

百キロのジャンボかぼちゃも、片手に乗るような小さなオモチヤかぼちゃも、春の種まきに始まり天候を気にしながらの栽培管理や弛まぬ情熱、愛情を注ぐことにより、百数十日を経て一つのかぼちゃとなるのである。土づくりや栽培方法の研究などをあわせると一年ががりの大仕事と言うことも過言ではない。

天候の変化に一喜一憂し、栽培管理に頭を悩まし、その生育に我が子の成長のような感動を覚え、秋には収穫の喜びや、時には挫折感を味わうこともある。そして人間もかぼちゃも天候や自然には絶対勝つことはできないちつぽけなものであることに気づく。だからこそ明日に期待する夢が生まれるのかも知れない。

そんな気持ちをずっと持ち続けながら生きていく職業がある。
農業である。

たった一粒の種から、そんな職業に生きる人間の姿を思い描いてみることも悪くはないかもしれない。



この企画はコンテストとして募集いたしました。本編では応募された方のストーリー的な気持ちを重視して、あえて結果を記載せず全作品を掲載いたしました。

平成九年十月

もうすぐ十一月

肌を刺すような冷たい空気に包まれた初冬　ビートの収穫が始まる
十二月　収穫されたビートが生産者の思いとともに

北見の製糖工場へ運ばれる

そして

ここ　オホーツク　サロマの大地は　ささやかな眠りにつく